

中野区立第二中学校学校だより

若葉 第240号



令和4年6月30日

令和4年度 第3号
発行者：校長 曾我 竜也

「不易流行」と With コロナ

6月4日(土)に実施した運動会は、コロナ禍の中、実に3年振りに全学年が参加する内容となり、運動会実行委員の生徒が考えた「上下一心(しょうかいっしん)」のスローガンのもと、教職員と生徒が一致団結し、体育的行事の目標にある、責任感や連帯感を培うことができたものと考えます。

保護者の皆様には、感染予防にご理解とご協力をいただくとともに、子供たちへの暖かいご声援をいただき誠にありがとうございました。また、早朝からの受付、体育館におけるパブリックビューイングの準備・片付け等、運動会の運営にご協力いただいたPTAの皆様にも心から感謝申し上げます。

さて、前回の学校だより2号で、3年ぶりの運動会を迎える生徒と教員が心に抱える「得体の知れない不安」について触れました。それは、生徒も教師も、「意識の上で、他者とつながっているという感情、同じ仲間であるという意識」つまり、この2年間コロナ禍の中で様々な教育活動が制限される中、生徒も教師も経験する事が乏しかった「連帯感」、その連帯感の希薄さに対する不安なのではないかと書かせていただきました。

生徒たちの様子を見る限り、コロナ禍による2年間のブランクはさほど感じることはなく、自分に与えられた役割をしっかりとこなし、クラス、学年については、練習を重ねる毎にまとまっていく様子が見て取れました。いつの時代になっても、基本的に子供たちは素直です。教師に言われたことを忠実に実行し、その経験から自分なりの価値観を見出し、成長していきます。次年度の課題は、教師主導から生徒主導の学校行事への転換と考えています。理想としては生徒会が中心となり、各種委員会の委員長、学級委員長、行事ごとに募集する実行委員で企画・運営ができるようになればと考えます。そのために、教師は生徒の目的達成のための計画立案を支援するファシリテーターに徹しつつも参画していくことが必要です。実現には、生徒も教師も意識改革が必要なため、なかなか難しいことではありますが…。

次に、先生方は今回の運動会における取組をどの様に感じたのでしょうか。教員の運動会アンケートにもありましたが、教員間の意思の疎通が図れていなかった場面が多々見受けられました。コロナ禍による2年間のブランクと、教員の異動に伴う本校の運動会運営に対する教員個々の経験値の差もあるのでしょうか、いちばんの要因は2年以上に及ぶ学校のコロナ対応における教師個々の教育観の変容に起因するものと思われます。

データとしても現れていますが、都内の教職員の70%~80%が学校の役割に対する見方・考え方(学校の役割)、教師の役割に対する味方・考え方(教師の役割)、授業の在り方に対する見方・考え方(授業観)に変容が見られました。新型コロナウイルスの影響によってこれまで学校教育で当たり前と考えていたものを問い直すきっかけを得ていた教職員が多いということになります。

今回の運動会、コロナが収束傾向に向かう中での開催であったため、3年前の運営内容を原則復活させたものでした。つまり、コロナ禍の2年間、行事の精選が行われ、学校の役割が見直されてきたのですが、コロナが収束するとともに、全てが元の運営スタイルに戻ってしまうのか?といった教職員の葛藤の表れが教員間の意思の疎通が図れていなかった要因のひとつにあったのではないかと考えています。最終決定者は校長の責任ですので、そういった面まで配慮できなかったことについて反省をしています。

時代はSociety4.0(情報化社会)から、Society5.0(人工知能AIの登場による最新テクノロジーを活用した社会:簡略)へと移行が始まっています。教育現場にも生徒一人にタブレットが配備され、一人ひとりの能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現が提唱されています。「不易流行」いつまでも変わらない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくことが、世の常と考えると、今回の運動会をきっかけに、二中の新しいスタイルを教師と生徒、そして保護者の皆様と検討していかなければいけないと考えています。

第1回「オープンキャンパス」

6月10日(金)、本郷小学校、中野第一小学校の6年生を対象とした、第1回「オープンキャンパス」体験授業が実施されました。体験できる教科は、国語(論理を学ぼう・百人一首を学ぼう)、社会(地図で学ぼう・日本の地形、都道府県を学ぼう)、数学(トランプで正負の数を学ぼう・ポリドロンで立体を作ろう)、理科(微生物を見つけよう)、英語(かんたんなフレーズで会話してみよう・Find Someone Who Game 私は誰でしょうゲーム)、音楽(サウンドスケープ「音を風景の観念でとらえる」)、技術(プログラムを学ぼう)、保健体育(長縄とドッジボール)と盛りだくさん。子供たちは希望する授業2コマに参加し、中学校での授業体験に興味津々の様子でした。また、先生方は運動会明けの翌週実施ということもあり、準備が大変だったと思いますが、6年生の子供たちのために、興味・関心がわく楽しい体験授業を提供してくれました。授業のサポートをしてくれた生徒の皆さんもお疲れさまでした。

第1回「定期考査」終了

運動会(6/4)、オープンキャンパス(6/10)、土曜授業(6/11)と、6月は行事等が目白押しでしたが、そのような中、第1回定期考査(6/15~17)が行われました。

3年生にとっては進路決定に向けた重要なテストとなり、問題に取り組む姿は真剣そのものでした。2年生にとっては1年生での学習の成果が問われるもので、特にテスト前の自宅学習における取り組みの改善点が、今回のテスト結果に大きく反映したものと思います。そして1年生にとっては初めてのテストです。小学校では既成の業者テストを利用していたので、中学校のように授業担当の先生自身が作成したテストに臨むのは初めての経験だったのではないのでしょうか。

さて、中学生になり「勉強のハードルが上がった」、「テスト勉強の方法が分からない」などの悩みを抱える生徒はたくさんいます。勉強の方法は人それぞれなので、いかに早い段階で自分にあった勉強のスタイルを見付け出すかが大切です。ちなみに私の中学生時代の勉強方法は、友人と二人で互いに予想問題を作成し、それを持ち寄り、学校や自宅でお互いに問題を出し合うといった形をとっていました。友人が自宅の近くに住んでいたこともあり、一人だと効率の上がらないテスト勉強も、二人でやると効率のいいものとなりました。また、徐々に勉強仲間が増え、気が付くと5人ぐらいで問題を持ち寄り、面白おかしくテスト勉強ができたことを思い出します。(あくまでも私の事例なので参考までに、私の時代は携帯もゲームもない時代ですので…)

次に教科の特性ですが、主要5教科を例に挙げると「暗記型」と「積み上げ型」の科目に分けられます。

暗記型の科目は「国語」「社会」「理科」でしょうか。もちろん、どの科目にも積み上げの部分もありますが、比較的暗記型の内容が多いようです。積み上げ型の科目は「英語」「数学」です。この2つの科目は1年生から、もっと言えば小学校から習う内容を確実に積み上げることが重要です。小学校及び1年生の内容が分からないければ、2年生、3年生に進級するごとに理解が難しくなるので、継続的に力を付ける必要があります。特に英語は、単語と文法を徹底的に暗記することが必要と考えます。英語では単語と文法が「土台」となります。「単語が分からない」「文法が整理できない」状態では、長文読解において苦勞することになるでしょう。(先述した友人は、英語の教科書(テスト範囲)を丸暗記し、全て書くことができていました。私には無理でしたが…)

また、数学においては、解けない問題や分からない公式をそのまましておかないことが重要です。数学は「解き方を理解する」ことが大切です。間違えた問題は何度も繰り返し解くといいでしょう。どうしても分からない時には、先生に聞くことが一番ですが、時間が取れない場合には、基礎の単元まで遡り、しっかりと理解を深めてから問題に取り掛かることが重要です。また、問題を解き終わったら必ず見直しをする習慣を身に付けましょう。(私は、分からない問題については、ひたすら友人に聞いていました…友人曰く、人に教えると自分の理解がさらに深まるとのことでした…感謝)

上記の内容は、あくまでも私の主観ですので、生徒の皆さんは自分なりの学習スタイルを確立してください。

最後にテストの結果ですが、テストの点数を見て「一喜一憂」するのではなく、冷静にテスト結果の分析を試みてください。分析には客観的な視点が必要なので、是非、保護者の皆さんも参加してみてください。その際、反省(悪かったこととのみの羅列)ではなく、肯定的な振り返り(出来たこと・出来なかったことの抽出→出来たことは継続 ※自分をほめましょう→出来なかったことは改善点の抽出 ※紙に書き出し見える可→次回実行)を心がけましょう。ポイントはテスト結果が80点であった場合、残り20点の克服(100点に近づくための方策検討)、テスト準備(勉強)については「予定通りできたこと→継続」「予想外にうまくいったこと→次回に反映」「出来なかったこと→その原因と改善点」といった視点で考えてみると、次回への意欲がわくのではないのでしょうか。